

◇この頃思うこと……

11月も残りわずかとなりました。ということは、今年、2025年ももう少し（1カ月ほど）でおわりということです。ついひと月ほど前は、夏の名残が感じられたり、台風が関東に近づきそうになったり、最近では春と秋が短くなって、日本の季節に彩りを与えてくれてきた豊かな四季から、亜熱帯化したように「二季」化しているといった声が上がっていますが、本当にそうなのかも知れません。

このように私たちを取り巻く自然環境や、さらには社会環境も大きな変化を示し始めているのと同様、教育現場のあり方も少しずつ変化しています。それは例えば受験のあり方の変化にも見て取れますが、実は受験生の考え方・受験への臨み方にもそういった時代の流れが色濃く反映しているようです。

みなさんも知っているでしょうが、今の大学生は多くの場合3年の秋には就職戦線がスタートします。ちなみに64歳の私が学生だった頃（40年以上も昔ですが）は、4年になってからやっと就活（就職活動）を始めたものです。

要するに、今の社会は、不確定要素が多いせいか、少子化のあおりで人材の取り合いが企業や大学・専門学校などにも及んでいたりするせいか、何でも早く動こう（決めよう）としています。今年も王総の3年次生の進路は大分決まってきました。具体的には、9～10月には総合型選抜による合格がどんどん出ていますし、学校型推薦（指定校・公募）も試験のピークは越えました。これから12月に入るとあちこちで「合格」の声が聞こえることでしょう。確かに進路が早く決まるのは“楽”なことだと思います。

しかし、本当のところ(?)受験とは、年度の終わり近くまで目一杯勉強をし、しっかりと学力を身につけ、そうして自分が到達した力(学力)に見合った学校に入るものだと思うのです。私は授業などでもよく話しますが、自分が高3だった時には、年末から入試が終わるまでほとんど腹を壊していました。いわゆる神経性の胃腸炎です。つまりその間、ずっとストレス（プレッシャー）にさらされていたということ。“苦”しかっただけで、そのおかげで精神面は強化されたと思っています。もちろん学力もそれなりについたはずですが。

どうですか？ 3年次のみなさん、“楽”を選んで“苦”から逃げていませんか？

1・2年次のみなさんは、これから先敢えて“苦”に立ち向かう覚悟はありますか？

若い時に“楽”することばかり覚えていたら、いつか社会に出て厳しい環境に自分が置かれた際に踏ん張る力が獲得できないかも知れませんよ。様々な意味で、「学生時代」は将来のための「準備期間」であり、力を蓄える「練習の時間」でもあるのですから。

◇◇3年次生に言いたい！（ここからはいつもの調子で書くヨ。）

前の文で述べたことを踏まえて、3年次の皆に言っておきたいことがある。

ボクが前に書いた文には、やたらと「～ですか？」とか「～知れませんが。」などと、ぼやかした表現が多かった。でも、ちゃんと読んでくれた人には分かったと思う。つまり、「ですか？」も「～知れない」も、共に「～だ！」という“断定”にボクの本音はあるということが。

そう、ボクが君らに言いたいのは、君たちは“楽”ばかりを求めようとしている。否、“苦しいこと”を避けようとする傾向が強い、ということだ。人間は“苦”から逃げるために“言い訳”を考える。曰く「～で疲れたから。」「～自信がないから。」君たちは“言い訳”を多用していないか？ そうやって自分を甘やかしても、自分は成長しないヨ！ 筋肉は少しキツイ負荷をかけないと発達しない。脳もまったく同じだ。キツイと感じられることに頑張っ取り組む。脳に負荷をかけてやる。そうすることで脳は強化（発達）する。

要は自分を甘やかさないことだ。それが君たちの脳、ひいては様々な「能力」を伸長させることにつながる。

もう「合格」を勝ち得た人、ここで安心してこのあと卒業まで何もしないで自分を甘やかせ続けてはダメだヨ！ 決まったからこそ、これまで以上に自分に負荷を（余り無理のない範囲で良いから）与えてや

るんだ。そうしないと、2月まで受験勉強をして負荷をかけ続けて入学してくる4月からの同窓生にかなわないゾ！

年明けの一般受験をめざす諸君。めげることなく努力を続けてください。たとえ短い間でも、これから先の努力(負荷)は、必ず君の「力」となって、君を一回りも二回りも強く、大きくさせてくれるだろう。

◇◇◇1・2年次生に言いたいこと

1年次生の授業を持っていて気づくことがいくつかある。その中で、特にここで書きたいことは、「君たちの“やる気”はどこへ行った?！」ってこと。

入学当初、君たちの目はどれもキラキラしていた。授業をしに教室に入るとそれまで友達とおしゃべりしていた人も、サッと着席した。そして、言われなくても教科書やノートを机の上に出して、「さあ授業受けるゾ！」って空気が醸されたものだった。それが今はどうだろう？ 声を掛けられてやっと自席に戻る。言われてから教科書を出す。ノートを忘れてボーっとしている。注意されると、平気で「忘れました～」と屈託なく答える……。そういう人が少しずつ増殖していないか？

2年次生。高校に通う目的を見失っていないか？

2年次も半ばを過ぎ、そろそろ君たちは3年次になる心の準備を始めなくてはいけない時期に差し掛かっているはずだ。気づいているかい？ 今、やるべきことに。今から始めなければいけないことに。

1・2年次のみんなには、前の「3年次に言いたい！」をもう一度読み返してほしい。

一年後、二年後に同じことを言われなかったため、そして後悔しないためにも、一度過去を振り返り、入学した時の「夢」や「希望」、「やる気」を思い出してほしい。そして、自身を少しでも高めるため、今、やるべきこと、始めなければならないことを見つけ(直し)てください。

漱石は、若者を前にした講演の中でこんな風に言っている。

「人は、自分がやりたことを見つけて、それを仕事にすること、そしてその仕事を通して自分の個性(=力)を発揮することが人生における幸福だ」と。大切なのは、自分の個性(力)を知り、それを育て強め、そしてそれを生かす進路に進むことなのだ。

忘れるな!! 1年次生! 思い出せ!! 2年次生!

◇◇◇◇今年の課題研究

本校では3年次に、4,000字以上の論文「課題研究」の提出が義務付けられている。これは必修・修得だから、出さなかったら(欠席がオーバーしても)卒業ができなくなる。「そんなことはわかってる！」はずだネ?! それなのに、まだ出していない人がいる。これはどういうことだろうか？

現在提出済みの論文を見渡すと、中にはA4(800字)で90枚を超えるものから、チャットGPTを多用して突き返されたものまで様々だ。内容的にも、大学生の論文並みなレベルのものもいくつかあった。そんな中で非常にレベルの高かった二つの作品が、次に挙げる二つの発表会に出ることになったので紹介します。

【東京都総合学科成果発表会(都立総合学科10校から各1名が代表者)】

代表 3年6組 村林萌依 さん 「現代日本の若者におけるアニミズム的価値観」

【TIPS 探究フォーラム・ポスターセッション(全都立高校から各1名)】

代表 3年5組 佐藤 豪 さん 「高校生の健康習慣改革」

ほとんどの人は論文を提出し終え、今は12月23日の「課題研究発表会」のためのプレゼンテーションシート(パワーポイント)作りに勤しんでいるところです。期末考査もあって大変ですが、精一杯良いものを作り上げ、王総生としてのプライドを示してもらいたいものです。

そして1・2年次生は、発表会における3年次生のプレゼンと発表のシートとをしっかりと目と心に焼き付けて、1年後、2年後に自分が同じ立場になることを心に刻んでください。

このような先輩と後輩との交流が、この王子総合高校の伝統を築き上げていくことにつながるのだと思います。